

## 2012年春 Semester 履修動向調査結果 ——履修傾向や学生動向について

### 実施報告

**日時:** 2012年7月9日(月) 17:00 ~

**場所:** 東海大学湘南キャンパス 17号館2階第2研究室

**内容:**

1. 報告1 (園田由紀子講師)
2. 報告2 (山口勉教授)
3. 結論 (園田講師)



### 1. 報告1

園田由紀子(講師)

多人数クラスをどうするかは大きな課題である。履修状況を見ると、曜日、時限によって学部学科の学生ごとに大きな変化がある。また、学生たちがどんな動機で履修科目を選ぶのかについて調査結果を見ると、センター科目全体では半数以上が「時間が空いていた」がトップ、続いて「内容が面白そう」と回答しているが、ジャーナリズムだけは6割近くが「面白そう」を挙げ内容で選んでいるのがわかった。

多人数の場合の履修制限で課題への回答によって選抜する場合は、その科目への履修意欲を見ている。意欲の低い学生が入ると、グループワークができないためだ。ただし、卒業がかかっている4年生は優先履修させるという前提はある。

とかくチャレンジセンター科目は、学生たちの間に「楽勝」科目(単位が取りやすい)というイメージがあるようで、「この科目は楽勝ではない」というだけで帰る学生もいる。特に「単位を落とす人が多い」というと受けない学生が多い。また、「履修制限ありますか」と聞いて来る学生の真意は「友達と一緒に受けられますか」ということ。一方、授業の効果を学生たちに実感させるには、初めに「ルーブリック(5段階の教育目標)」を提出させ、それを終了時にチェックさせるとよいだろう。



## 2. 報告 2

山口 勉(教授)

ジャーナリズム実践教育特定プログラムというコースによって授業を展開している。こうしたコースをつくった背景には、報道界に東海大出身者が少ないということがある。

このプログラムでは、コアになる学生はゼミで学び、その前の段階として演習を設定。その他、分野別科目として政治、出版、写真などの各科目を開講しており、読売新聞編集局の各部、中央公論から講師を招聘している。

今年の春semesterで特に受講生が多かったのは出版ジャーナリズム(金-5)だった。昨年度までは40人前後だったが、今年は約100人が来た。また、政治、ウェブ、経済の各ジャーナリズム科目も履修制限を実施した。

私の担当している国際ジャーナリズムの例をいいうと、授業態度はまじめで静かではあるが、最終的にゼミまで受講してジャーナリストを目指そうという当プログラムにとってのコアの学生が来ないのが残念だ。履修制限の実施がいいのか悪いのかは、何とも言えない。



## 3. 結論

園田由紀子(講師)

入門系の科目は、履修制限を実施せざるを得ない。それはグループワークが出来ないからだ。また、今後の多人数クラス対策としては、「楽勝」科目を少なくする必要があるだろう。だが、モチベーションの低い学生を機械的に排除してよいのかとなると今後の課題だ。排除の前に学生の意識改革が必要だろう。

(文責・岩田)

